

企業ニュース 任天堂

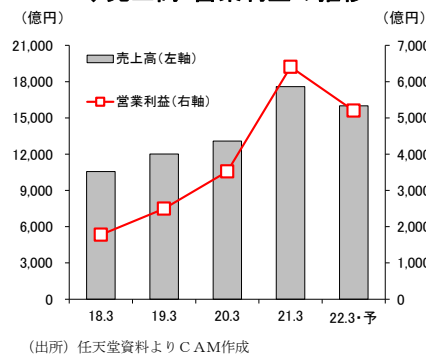
(東証1部 : 7974) <https://www.nintendo.co.jp>

作成者: 村上大志

有機ELモデルの販売は順調なスタート

「ファミコン」や「ゲームボーイ」、「Wii」、「ニンテンドーDS」、「Nintendo Switch (以下NS)」などヒット商品を多数有するゲーム機メーカー。NSは今年で発売5年目だが販売は堅調で、9月末時点での累計販売台数は9,000万台を超えた。10月に発売した有機ELモデルの販売は順調なスタートを切った。「マリオ」や「ポケットモンスター (以下ポケモン)」など自社IP (知的財産) の多方面展開を進めており、3月にUSJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) の新エリアとして「スーパー・ニンテンドー・ワールド」を開業。また、同エリアを拡張し新たに「ドンキーコング」をテーマとしたエリアを2024年にオープン予定。

◇売上高・営業利益の推移



年末商戦の滑り出しは好調

22.3期・第2四半期累計 (4-9月) の連結業績は売上高が6,243億円、前年同期比19%減、営業利益は2,200億円、同25%減。NSの販売台数はハード (NS Lite含む) が同34%減の828万台、ソフトが同6%減の9,389万本となった。前期に大ヒットした「あつまれ どうぶつの森」の反動減によりハード、ソフトともに販売が減少し減収減益だが、上期としては売上高、営業利益ともに高水準となり、おおむね計画通りの着地となった。

22.3期の会社計画は売上高が1兆6,000億円、前期比9%減、営業利益が5,200億円、同19%減。半導体部品などの供給不足によりハードの通期予想販売台数を期初予想比150万台減の2,400万台に引き下げた一方で、ソフトは同1,000万本増の2億本に引き上げた。さらに為替レートの見直しを行い、通期の営業利益を200億円上方修正した。11月に発売した「ポケットモンスター ブリリアントダイヤモンド・シャイニングパール」は、「あつまれ どうぶつの森」以来の好調な滑り出しとなっている。年末商戦が本番を迎えた米国ではNSの販売が好調との報道もあり、ハード、ソフトともに販売モメンタムの回復が期待できよう。

[株価動向・投資判断]

ハードの供給には不透明感が残るが、アクティブユーザーの拡大でデジタルビジネスの基盤構築が進んでいる。2022年は大型タイトルが複数発売予定で、来期の業績拡大が期待できる。

<7974 任天堂 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,308,519 (9)	352,370 (41)	360,461 (30)	258,641 (33)	2,171.2	1090.00
21.3	1,758,910 (34)	640,634 (82)	678,996 (88)	480,376 (86)	4,032.6	2220.00
22.3 予	1,600,000 (▲ 9)	520,000 (▲ 19)	500,000 (▲ 26)	350,000 (▲ 27)	2,965.0	1490.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2021/11/26)	49,850 円
年初来高値 (高値日)	69,830 円 (21/2/17)
同 安値 (安値日)	47,890 円 (21/10/27)
予想 P E R (22.3 予)	16.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	15,238.5 円
P B R	3.27 倍
予想配当利回り	2.99 %
(1株当たり配当金年1490.00円)	
R O E (21.3)	28.1 %
発行済み株式数	12,987 万株